

まち、ひと、しごと。



# 海と日本 PROJECT in 岩手

 IWATE NIPPO



海と人と人をつなぐ。



「海と日本PROJECTとは」

## 海と人と人をつなぐ。

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、  
ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。  
そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、  
子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、  
海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、  
日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、  
オールジャパンで推進するプロジェクトです。

### いわて マリンキッズ プロジェクト

～体感!岩手の海の素晴らしさ・楽しさ・大切さ～

「つくり育てる漁業」の先進地である岩手県。  
中でも沿岸部のほぼ真ん中に位置し、三陸有数のカキ養殖場としても知られるのが山田湾です。  
山田湾は、普段は外海の影響が少なく、波がとても穏やかです。

しかし、東日本大震災の後、浜辺の減少や復興工事の影響、施設不足などで、  
子どもたちが沿岸部を訪れる機会は以前よりも少なくなりました。  
一方で、沿岸部に住む人々の生活は再建しつつあります。

そこで、海の楽しさを知ってもらうとともに、  
プラスチックごみによる海洋汚染問題や震災後の環境変化、  
復興の様子を学び、地元の海に理解を深めてもらおうと、  
7月29、30日の両日、県内の小学生21人が参加し  
「いわてマリンキッズプロジェクト」が開催されました。

シーカヤックや漁業体験などを通じ、子どもたちが海の豊かさや今後の課題を学びました。

このプロジェクトは日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の取り組みの一環として開催するものです。



We love Iwate, Yamada!

## 山田湾をもっと知ろう

山田湾は沖合で親潮と黒潮がぶつかる世界でも有数な漁場。南北を二つの半島に挟まれ、太平洋と湾を区切る入り口部分が狭くなっていることから、外洋の影響を受けにくく穏やかで、養殖漁業に適した環境がある。山田町では、古くからカキ、ホタテ、ワカメなどの養殖漁業が盛ん。

定置網では秋サケ、サバ、スルメイカなど、多種多様な魚が水揚げされる。

山田町は、2011年3月11日の東日本大震災で、大きな被害を受けた。

同町の死者・行方不明者は825人(2018年11月現在)。津波と大規模な火災により、尊い命が犠牲になった。

約4200台あった養殖いかだも流されるなど、町の基幹産業である水産業も大きな打撃を受けた。



震災から8年余りが経過し、徐々に復興は進んでいる。カキやホタテの養殖いかだは約2200台まで回復。

震災前の半数ほどだが、海中でのカキの密集度が下がったため、

一つ一つに海の栄養分が行き渡るようになり、高品質なカキを出荷できるようになった。

また、近年ではシーカヤックなどのマリンスポーツや養殖いかだ見学ツアーなど、

豊かな海の資源を生かした観光産業にも力を入れている。

湾内に浮かぶ無人島「オランダ島」の整備も計画されるなど、

多くの恵みを与えてくれる豊かな海を生かした営みが繰り広げられている。



山田湾にみこしが入る「海上渡御」が見どころの大杉神社例大祭



養殖いかだ並ぶ山田湾



1日目は、鯨と海の科学館で開会式が行われ、佐藤信逸町長や町の住民が子どもたちを歓迎。  
講義で山田湾の特徴と課題を学んだ後、海水浴やシーカヤック体験を通じて、全身で豊かな海に親しんだ。



## いわて マリンスキッズ プロジェクト

～このプロジェクトに参加してみよう～

### 11:00 講義・海の知識を深めよう

#### 岩手の海の豊かさ

～山田湾の特徴 海をめぐる課題～

岩手大学三陸水産研究センター 後藤友明准教授

一日目の座学風景

海には陸地よりもはるかに複雑で多様な生態系が広がっている。小さな植物プランクトンが陸地の植物と同じ役割を果たし、食物連鎖を支えている。

世界三大漁場の一つである三陸の海は、植物プランクトンが豊富。また、岩手の海は親潮、黒潮、津軽暖流の3つの海流が季節によって、せめぎ合いを繰り返しているため、複雑で変化に富んでいる。さらに、リアス式海岸で地形的にも恵まれている。

山田湾はカキやホタテなどの養殖が盛んだが、海の栄養が豊富なので、餌を与える必要がない。海の豊かさに委ねているのが岩手の養殖漁業だ。

海洋ゴミの問題は、陸地のゴミと違って見えないから難しい。その約8割は陸上から出ているといわれている。陸地にたどり着く漂着ゴミもあれば、海底に沈むゴミもある。

海に捨てられたプラスチックは、細くなつて微少なマイクロプラスチックになる。これを魚が食べてしまうことがある。ビニール袋もクラゲと間違つて魚が食べるなど深刻な問題になっている。

このまま増え続けると、2050年には世界の海洋プラスチックゴミの量が魚の量を上回るという試算もあり、ゴミを捨てない意識が大切だ。



半田 風瀬君(緑が丘小6年)

バナナボートは最高! 漁船に乗ったのも楽しかった。ホヤが食べられたことには、自分でも驚いた。



米屋 佳穂さん(城南小6年)

アカザガイやホタテなどを食べてみて、今まで苦手だったのが美味しく感じて好きになった。



園部 凱大君(上田小6年)

きれいな海でも意外にゴミがあることが分かった。見つけたらゴミを拾いたいし、自分は捨てないようにしたい。



佐々木 柊君(緑が丘小6年)

貝の養殖をみたとき、貝にいろいろな生き物がついていた。鯨についても詳しく知ることができた。

### 13:30 海の安全教室

ライフジャケットの役割や、事故防止のため2人1組となつて互いの活動を監視し合う「バディシステム」について学習。実際にライフジャケットを身に付け海面に浮かぶ体験や、ライフジャケットを外した状態でも浮かぶ方法を体験し、海で安全に遊ぶための注意点を学んだ。教室の後は海水浴やバナナボートに乗って楽しんだ。



## 開業7周年記念 開催中

### キャンペーン

おかげさまで  
開業7周年を迎えました  
日頃の感謝を込めて  
キャンペーンを開催中

7th  
ANNIVERSARY

シングルルーム 1泊 素泊り  
キャンペーン  
特別料金 **5,500円** ※数量限定のため、お早めにご予約ください。

■チェックイン 3:00pm ■チェックアウト 10:00am  
■長期滞在可 ■駐車場 60台(無料)



ホテル ビジネスイン やまだ TEL0193-84-3006 FAX0193-84-3021  
下閉伊郡山田町船越第6地割148-1 URL www.inn-yamada.jp

岩手県山田町体験プログラムガイド  
いわて・三陸・まぼまん中あたり  
**山田町に来ると、こんなことができます!**

またまたあるよ! 魅力的な体験プログラム

がんばる商店主が 山田町の魅力をご案内

おいしいー!!

アカザガイのお刺身や しゅうり貝の蒸し焼き試食付き

山田湾&オランダ島で 遊びつくそう!

漁師さんの船に乗って クルーズ&養殖見学

復興まち歩き つまみ食いツアー

アカザガイは地元でもなかなか食べる機会がないほど貴重!!

詳しくはこちらからもご覧いただけます

【お問い合わせ】やまだワンダフル体験ビューロー TEL0193-82-3111(内線227) ●受付時間/8:30~17:15(土・祝を除く)  
【メール】info@yamada-fc.org 【ホームページ】http://www.yamada-kankou.jp/wonderful-taikun/





森 優斗君(高松小6年)

海で泳いで、海の水が本当にしょっぱかった。いままで美味しくないと感じていたカキが美味しかった。



藤本 玲央君(緑が丘小6年)

海にゴミが落ちていて、海がかわいそうだと感じた。漁師さんの作業をみてすごいと思った。



芳賀 泉澄さん(大新小5年)

海はきれいに見えるけど、実はゴミがたくさんあることを知った。これからもポイ捨てはしないようにしたい。



菊地 類君(緑が丘小5年)

シーカヤックは最初は思い通りに動かせなかったけど、どんどん進めるようになった。海とふれあって楽しかった。



遠山 立樹君(盛岡・土淵小5年)

アンダーエイジの2人とのゴミ拾いが楽しかった。バナナボートもスビード感があっておもしろかった。



大沼 完太君(上田小5年)

山田町で鯨を捕っていたことに驚いた。シーカヤックは風や天候によって、操作が難しかった。



### 14:30 シーカヤックに乗ろう!

山田町内でシーカヤックなどのエコツアーを企画するジオトレイルの川村将崇代表が講師を務めた。始めに、川村さんがパドルの持ち方や進行方向の変え方、注意点などを説明。子どもたちは真剣な表情で話を聞いた後、一斉にシーカヤックに乗り込み、次々に海へこぎ出した。

最初は恐る恐るパドルをこいでいた子どもたちも、慣れてくると競争したり海の中をのぞき込んだりと、思い思いに楽しんでいた。

遠山立樹君(盛岡・土淵小5年)は「初めて乗ったので、曲がるのが難しかった。海の上からクラゲが泳いでいるのが見えた」と感激の様子。大沼完太君(上田小5年)は「まっすぐ進めず友達とぶつかったりしたけど、とても楽しかった」と全身で海を満喫していた。



### 17:00 夕食は貝の蒸し焼きバイキング!

たくさん体を動かした後の夕食は、山田湾で育った新鮮なカキやホタテ、アカザラガイをふんだんに使った「貝の蒸し焼きバイキング」。山田町観光協会の沼崎真也さんやカキ小屋のお母さんたちが山田湾で取れる貝について紹介すると、子どもたちは「何年くらいしたら食べられるようになるんですか」「貝は普段何を食べているんですか」と、次々に質問していた。

専用ナイフを使って蒸し上がったカキの殻むきにも挑戦。蒸したてのカキを口いっぱいほおばった子どもたちは「おいしい」と歓声を上げて感激の様子だった。芳賀泉澄さん(大新小5年)は「カキは何も付けなくても味があって驚いた。アカザラガイもすごくおいしい」と満足そうだった。



## 生まれも、育ちも「三陸 岩手」



安全・安心の目印です。「三陸岩手わかめ認証制度」



JF 岩手県漁業協同組合連合会 〒020-0023 岩手県盛岡市内丸16-1 TEL019-623-8141 FAX019-654-7011



100%産地直送 山田湾から食卓へ直送! 鮮度が違います。 三陸やまだ漁協直売 三陸やまだ漁協 選りすぐりの共同販売 漁業者独自出品 商品も価格も 漁師が決める特選品

岩手県山田町からとれたての海産物を直送。牡蠣やホタテのほか、産地ならではの貝類や海藻など、人気商品を旬の時期にお届け。 三陸やまだ漁協の組合員から旬の海産物を出品しているから、年間を通じて安定して安心な商品を発送することが可能。 商品に絶対の自信を持つ漁師が、今食べてほしいものを出品。漁師たちの商品にかけられる思いに触れてください。

三陸やまだ漁業協同組合 下閉伊郡山田町中央町11番14号 0193-82-3632 9:00~17:00 (土・日・祝日休業)

三陸やまだ産直 <https://jf-sanrikuyamada.shop>





2日目は、「鯨と海の科学館」の見学とカキやホヤの養殖いかだ見学のほか、  
学んだことを絵で表現するポスター制作が行われ、  
子どもたちが2日間の思い出をポスターに込めた。

## いわて マリンキッズ プロジェクト

～このプロジェクトに参加してみよう～



千田 日和子さん(高松小5年)

人のポイ捨てで海が汚れることを初めて知った。改めて海の大切さに気付くことができてよかった。



舟山 友葵君(緑が丘小5年)

鯨の大きさに驚いたし、知らなかった特徴を知る事ができた。バナナポートやシーカヤックも楽しかった。



谷地 奈々さん(上田小5年)

鯨についてたくさん勉強できた。山田で食べたイカは盛岡で食べるのより美味しいと感じた。



藤村 利希人君(緑が丘小5年)

貝が嫌いでずっと食べていなかったが、山田で食べて美味しかった。特にアカザラガイは美味しくて4枚も食べた。



田村 友芽さん(大更小6年)

山田町では町が一丸となって海を守っていた。海がきれいで海産物が美味しくて、山田の海は最高だった。

### 9:00 クジラと海の豆知識

鯨と海の科学館 湊敏館長

湊敏館長が、同科学館の目玉展示であるマッコウクジラの骨格標本前で、鯨の身体的特徴などを説明。東日本大震災時は骨格標本も津波の被害を受け、半分ほどが浸水したことを説明すると、子どもたちは真剣な表情で聞き入っていた。

続いて行われた講演では、かつて山田町で行われていた捕鯨の歴史や、鯨の生態、種類についてクイズ形式で紹介。子どもたちは次々と手を上げて、楽しそうに鯨や海についての豆知識を学んだ。

湊館長は「鯨と海の科学館は山田町のシンボル。小さくても世界に誇れる科学館にしていきたい」と語った。



### 12:00 昼食にイカをさばいて食べよう!

昼食は、自分たちがさばいたイカで鉄板焼きに挑戦。子どもたちは、講師を務めたカキ小屋のお母さんたちから、わたと軟骨を取り除く「つば抜き」の方法を教わった。新鮮なイカのツルツルとした触感に悪戦苦闘しながら、何とか下処理を終えると、熱々の鉄板に乗せバターとしょうゆで味付け。「おいしい」と口々に言い合いながら、おいっぱいにご飯をかき込んでいた。



**びはん**  
船越湾漁業協同組合

**大船渡温泉**

電気工事・配線・配管・空調設備工事・設備メンテナンス  
**(有)渡辺電気**

〈順不同〉

子供を見たらまず徐行 クルマと、つぎの楽しみを。 TOYOPET

期間中、新車ご成約の方に抽選でヘア **5名様ご招待!** 漁火の見える海への露天風呂

**special 大感謝祭**

期間中、新車サホーご成約で **オプション用品プレゼント**

9/7 SAT → 15 SUN **7万円分 5万円分**

ご来店プレゼント お子様にはお菓子プレゼント

新車・U-Car 選べるご成約プレゼント

プレミオ マークX 限定特典

地域を守る「こども110番の店」 岩手トヨペット

019-651-3211 <https://iwate.toyopet-dealer.jp/>

定休日: 毎週月曜日・第一火曜日





竹本 駿貴君(上田小5年)

カキの育て方や水揚げ作業など、海の幸をどのようにとるか知ることができて良かった。



高村 芽依さん(上田小5年)

海のゴミが意外に多いことに驚いた。自分は捨てないようにしたい。船やシーカヤックに初めて乗れて楽しかった。



小守林 飛鳥君(高松小5年)

シーカヤックは曲がりたい方向の反対側を漕ぐなど、操作方法がおもしろかった。もう一度山田に来て体験したい。



ニシュヌサイバラムさん(上田小5年)

海のゴミが生き物に影響することが分かった。漁業に携わる人の苦勞で、美味しいものが食べることができると感じた。



佐々木 笑生君(高松小5年)

初めて漁船に乗り、波で揺れたのが楽しかったし、風も気持ちよかった。食事のときのイカさばきが楽しかった。



田村 良芽君(大更小6年)

生まれて初めてイカをさばいたり、シーカヤックに乗ったりできて楽しかった。海にゴミを捨てないようにしたい。



### 10:30 養殖漁業を学ぼう!

漁船4隻に乗り分けて、山田湾に浮かぶ養殖いかだ見学へ出発。ロープでつるされたカキやホヤが、クレーンで勢いよく引き上げられると、子どもたちは「うわー」と歓声を上げて喜んだ。

船上では、漁師の中村敏彦さんがカキの育つ環境や水深について説明。子どもたちは、カキの1年目、2年目、3年目の成長を見比べながら、殻をむいてもらい中身を触ったり、においをかいだりして興味津々で耳を傾けていた。

引き上げたばかりのホヤをさばいてもらった舟山友葵君(緑が丘小5年)は「自分がホヤを食べられると思わなかったので、びっくりした」と目を丸くしていた。



### 13:30 山田の海PR ポスターを作ろう!

ポスターは、子どもたちが2日間体験したことや学んだことを、絵やキャッチコピーで表現し、山田町の海をPRすることを目的に制作。出来上がった作品は8月12日から1カ月間、三陸鉄道の列車内や駅構内に掲示し、鉄道を利用する住民や観光客にも、岩手の海の素晴らしさや環境を守ることの大切さを発信する。

一般社団法人海洋連盟の加藤才明さんが講師を担当。ポスターに添えるキャッチコピーの付け方などを説明した。

子どもたちは、絵の具やクレヨンなど思い思いの筆記用具を使って、山田町で学んだことや感じたことを表現。「砂浜に何があったかな」「海は何色に見えたっけ」などと話しながら、シーカヤックや養殖いかだ、鯨などを鮮やかに描き、いきいきとしたポスターに仕上げた。

加藤さんは「みんなの絵が三陸鉄道に飾られるので、ぜひお父さんやお母さんと見に行っていきたい」と呼び掛けた。



ポスターは三陸鉄道の列車内、駅構内に掲示中

お客さま、地域の皆様と共に



三陸鉄道

鎌田水産株式会社

株式会社 宮田燃料

KAWATOKU

〈順不同〉





大船渡市・碁石海岸(4月24日)



アンダーエイジとゴミ拾い  
(7月29日・山田町)



宮古市・浄土ヶ浜(4月13日)



Clean Iwate, Pacific Ocean!



## いわて海ごみなくし隊

プラスチックゴミなどによる海洋汚染は世界的な問題になっており、その約8割は街中から出た生活ゴミといわれている。

こうした中、海と日本プロジェクトin岩手は、「いわて海ごみなくし隊」を結成し、

4月から沿岸各地を中心に清掃活動を展開。これまでに約8000人が参加している。

隊長には「岩手住みます芸人」のアンダーエイジの熊谷由輔さんと結城多聞さんを任命。

2人は5月28日に盛岡市の県営球場で行われたプロ野球の楽天ー西武戦で来場者にPRした。

7月29日にはいわてマリンキッズプロジェクトに参加した小学生と一緒に山田町でゴミ拾いを行った。

清掃活動は洋野、久慈、田野畑、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡、盛岡の各市町村で実施された。

久慈市では多くの小中学校や高校生が参加するなど、大きな広がりを見せている。



洋野町・種市小学校(6月5日)



久慈市・久喜小学校(6月4日)



宮古市・三王岩(6月29日)



山田町・浦の浜(7月18日)



釜石市・根浜海岸(7月15日)



田野畑村・机浜(7月18日)



大槌町・浪板海岸(6月8日)